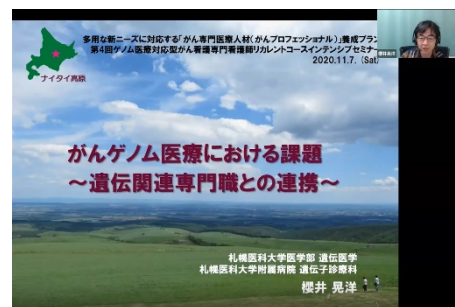


令和2年度 多様な新ニーズに対応する 「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン インテンシブコースセミナー

日時: 2020年11月7日(土) 10:00~12:00
 場所: 兵庫県立大学遠隔講義室(Zoom)
 テーマ: 「がんゲノム医療における課題～遺伝関連専門職との連携～」
 講師: 櫻井 晃洋先生(札幌医科大学医学部 遺伝医学教授/札幌医科大学
 附属病院 遺伝子診療科長)
 受講者: 80名(アンケート回答数 53(回収率 66.3%))
 主催: 兵庫県立大学看護学研究科 多様な新ニーズに対応する「がん専門
 医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン代表 内布
 敦子



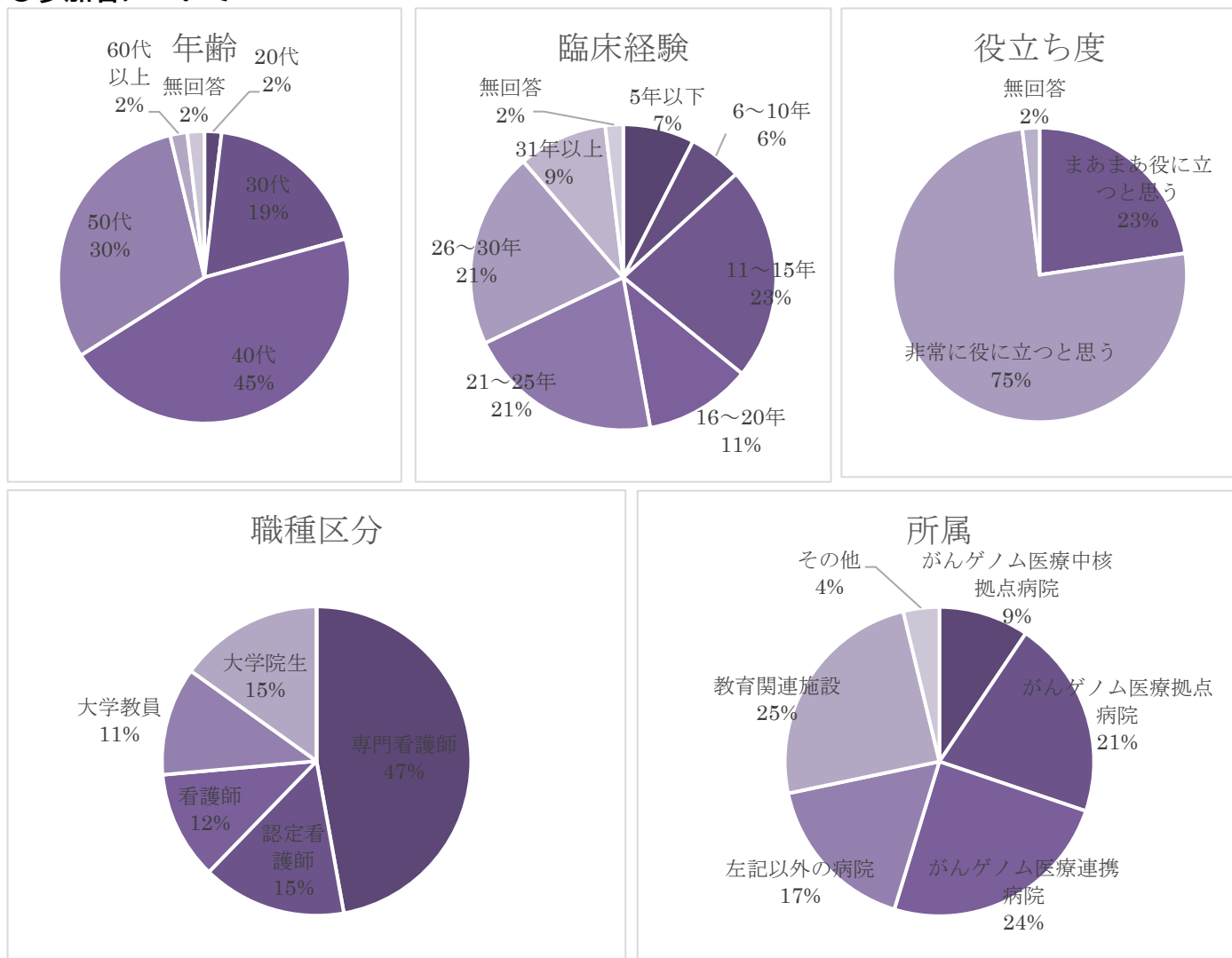
<概要>

札幌医科大学医学部 遺伝医学教授/札幌医科大学附属病院 遺伝子診療科長 櫻井 晃洋先生から「がんゲノム医療における課題～遺伝関連専門職との連携～」についての講演でした。がんゲノムの基本的なことをご説明頂いた後、遺伝性腫瘍の特徴や意義、これまでの診療の流れ、遺伝カウンセリングとして遺伝外来が行っていること、コンパニオン診断・がん遺伝子パネル検査と遺伝性腫瘍について最新の状況を交えてお話がありました。

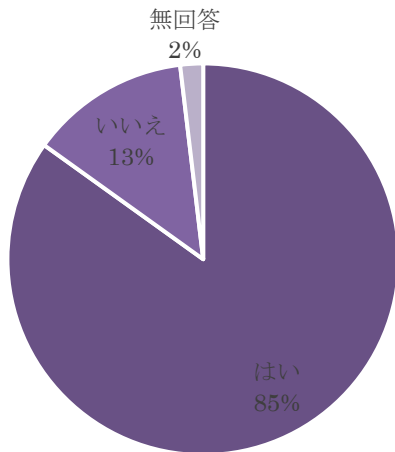
その後、Zoomのブレイクアウトルーム機能を利用して、参加者を数名ずつに分けたグループディスカッションが行われ、がんゲノムの事例をもとに看護師として何ができたかなど活発な議論が行われました。ディスカッション後、櫻井先生より、遺伝関連専門職連携の中で、誰が主となって行っていくのか、考え方などさらにご説明頂き、がんゲノム医療が抱える問題をより深く考える有意義な時間となりました。

<アンケート結果>

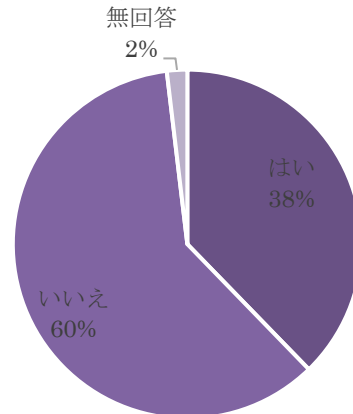
●参加者について



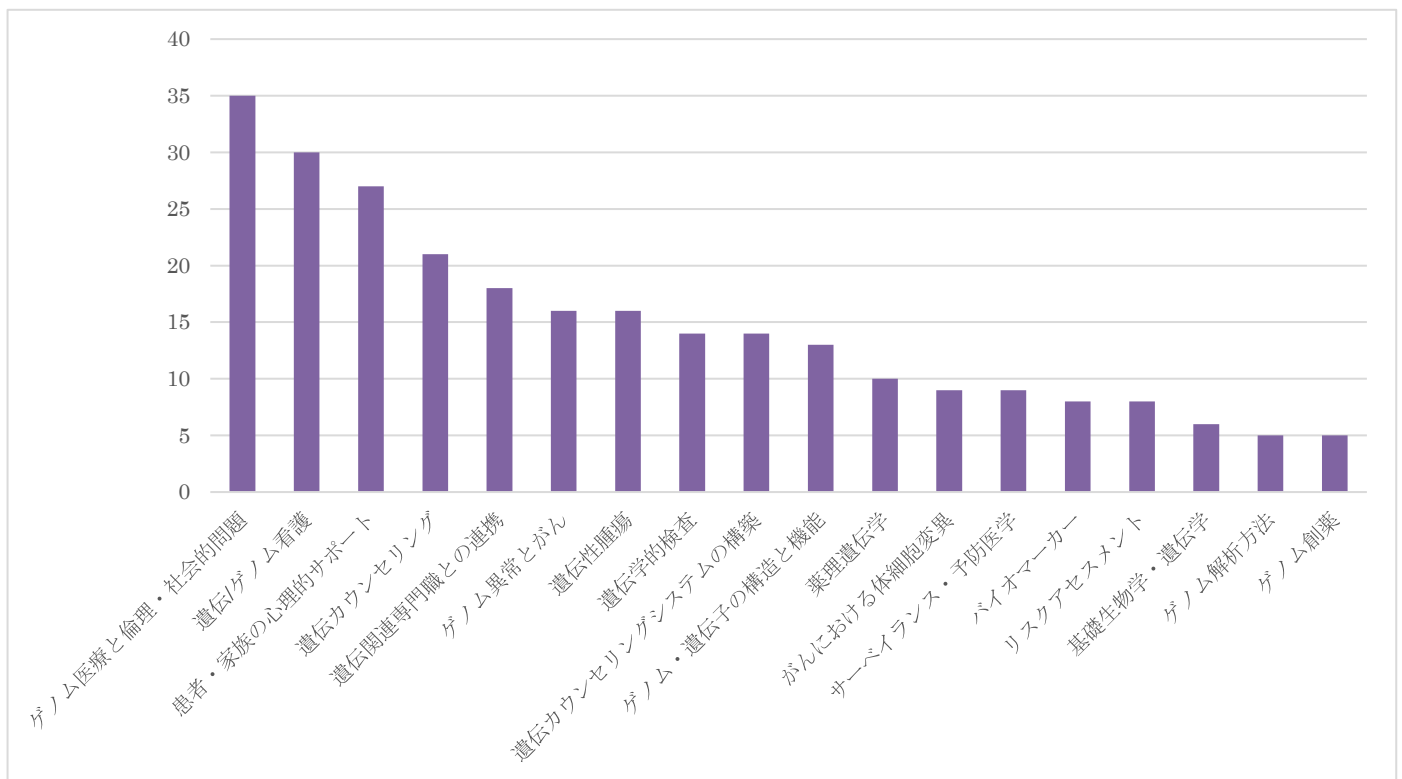
がん医療に関わっている



がんゲノム医療に関する業務に主に携わっている



●今後、セミナーに期待するテーマ



●参加者からのコメントより

▼今回のセミナーで、あなたが感じたこと、印象に残ったことがあれば自由にお書きください。

ゲノム医療の現状

- ・ 櫻井先生の説明がとても理解しやすかったです。特に「コンパニオン診断/がんゲノムプロファイリングからのHBOC診断」の図が非常にわかりやすかったです。
- ・ 櫻井先生のご講義とても分かりやすかったです。がんゲノムの現状や今後について教えていただきました。
- ・ 遺伝性腫瘍と非遺伝性腫瘍とがボーダーフリーに今後はなっていくという説明にととても納得しました。二次的所見として判明するかもしれない遺伝性腫瘍について、遺伝専門家だけでなく、ジェネラルナースもある程度知識をもっておけるように、基礎教育の段階からの教育が必要だと思いました。
- ・ 他施設のがんゲノム医療と看護の現状を知ることができたこと
- ・ 遺伝性腫瘍と言うこと自体が変わりつつあることを実感した
- ・ まだまだ看護師ががんゲノム医療にかかわるのは、マンパワーや施設の意向もあり、難しいところが多いと感じた
- ・ がんゲノム医療についての情報がなかったので、現状を知ることができて良かったです。コンパニオン診断

についても初めて知りました。

- ・ 一般病院での日常のがん診療の中で、遺伝外来との繋がりは遠いイメージで過ごしている看護師が大半だと思う。今日のディスカッションを通して、がん看護に関わる看護師全体が体細胞変異による腫瘍だけでなく、遺伝腫瘍についても興味を持ち、勉強していく必要があると感じた。
- ・ 癌腫によってはどの診療科でも必要になることがわかった。
- ・ 検査後の結果で、他施設へ繋ぐ患者さんへの説明も必要でありゲノム医療の事、説明時期や内容の習得の必要性を感じました。
- ・ 実臨床の事例から、現状を考える事が出来ました。
- ・ がんゲノム医療が急速に進化しているが、現場がついていけないように感じられた。がん化学療法看護認定看護師として治療を受ける患者に関わる以上、もっと遺伝看護を学ばなくてはならないと感じた。
- ・ ゲノム医療がどこまで進んでいるのかが理解できた。
- ・ がん患者の意思決定支援を行っている、おのずとがんゲノム医療にも関わるようになってきました。最後に先生からパネル検査時点でのカウンセリングは不要という話がありましたが、患者さんも医師も、治療を進めていくことがまず最大重要課題になっているときには、ご本人にも余裕がないように感じます。臨床では、今年度の診療報酬改定に伴い、医師が積極的に HBOC の拾い上げを行うようになっており、疾病早期からの働きかけが進んでいるのも感じます。今回の事例では、おそらくリムパーザの使用が可能になった時点からの介入とも思いますので、今後はもっと早期からの対策が取れてくるのではないかと感じました。また、ディスカッションでは、スタッフへの教育も考えていかなければいけないと感じました。
- ・ 本人の治療方針だけでなく、血縁者への情報提供に関する検討も含まれるため、今後は、多職種間で倫理的課題を検討していく必要性を感じました。

遺伝カウンセリング

- ・ 遺伝カウンセラーが勤務していない施設ではありますが、日常の診療で関わるべき視点が整理できました。がん治療病院で遺族ケアに関わる場面が少ない中、今回の事例にあるご家族の悲嘆ケアも重要になってくるのではないかと考えました。
- ・ カウンセリングのタイミングについて
- ・ 遺伝カウンセリングのタイミングが難しいと感じていましたが、正解はなく、お一人お一人の方で、丁寧に多職種で検討していこうと思いました。
- ・ コンパニオン診断の結果による遺伝への対応の考え方
- ・ 今臨床で起きているゲノム診断(患者に伝えるタイミングや家族にどうフォローするかなど)が聞いて勉強になりました。
- ・ 当時は治療選択目的でスピードを上げて行った遺伝子検査であっても、当事者以外の血族への影響と将来の意思決定支援に関して、長期的なコミュニケーションとケアが重要であることを学んだ。
- ・ がん診療を受ける患者のプロセスを支える中で遺伝子検査は個、時間を越えることが問題の整理を複雑にしてしまうと感じました。がん告知が通常になったように遺伝子検査も通常になってどのような結果でも検査後の対象者を支援できる体制作りが必要になってくると考えています。

グループディスカッション

- ・ 事例でのディスカッションは、様々な施設での現状と課題など共有できとても良かったです。また、専門的な知識や技術に関して、広めていく教育の難しさや課題も明らかになりました。
- ・ グループワークでは、他施設でがんゲノム医療を提供している状況に何え、また様々な部門に所属されている看護師の方の考え方を知ることができました。ゲノムについて話し合う機会が得られてなかったので大きな学びになりました。
- ・ グループでディスカッションすることでより深く考えることができました。
- ・ 事例を事前に用意しておくようアナウンスが欲しかった(PPT の配布資料だけかと思っていました)
- ・ グループディスカッションがあることもアナウンスしておいていただけたら…。急に始まったのと、事例の準備とで落ち着いて話し合いが出来るまでに時間がかかりもったいなかったなあと思います。講義、ディスカッションはとても勉強になりました。
- ・ ディスカッションの中で、がん看護と遺伝看護、双方の視点から意見を交換できたことはとても有意義でした。現状では施設間の差が大きいかと思いますが、臨床の中でもお互いの専門性がうまく発揮できれば実践の質が向上していくように思います。
- ・ 事例のディスカッションでは、参加者それぞれの立場での課題を通して、臨床でのゲノム医療における課題を垣間見ることができました。患者を継続してサポートするためのシステム作りということも話題にあがり、CNS の役割についても考えさせられました。
- ・ 遺伝カウンセリングについて、事例のディスカッションを通して、学ばせていただきました。
- ・ グループディスカッションでは、がんゲノム医療における他施設の方の取り組みについてお聞きすることができ、又、当院での現状や課題を振り返る機会にもなり、勉強になりました。4 名という構成も多すぎず、話しやすかったです。
- ・ 個人情報の問題があり難しいかとは思いますが、症例とディスカッションポイントについて事前に配布いた

- ・ だき、当日までに各自検討する時間が持てれば、尚、活発な意見交換に繋がったのではないかと考えます。
- ・ 他施設の方と意見交換ができ、疑問に感じていたことを質問することもでき、とても学びになりました。これからの看護に活かそうです。
- ・ グループワークにおいて他施設の現状について共有することができ良かったです。
- ・ PC の接続が上手くいかず、音声のみの参加でした。みなさんのディスカッションを聞き非常に勉強になりました。どのタイミングでの告知が良いのかというのは当事者の今後を左右することなので、可能性がある時点での情報提供と精神的サポートが必要であると考えます。

その他

- ・ 知識不足を感じ、これから勉強していこうと思います。
- ・ それぞれの施設の現状を知ることができました。
- ・ 遺伝情報は、いつかみんなに役立つ情報だという考え方が印象に残りました。
- ・ 深い。
- ・ zoom に慣れておらず、ご迷惑をおかけしました。
- ・ いろいろな施設の方との意見交換をすることが、学びとなりました。

▼がんゲノム医療を推進するうえで、現在抱えている課題についてお書きください。

患者への支援

- ・ コンパニオン診断をしても治療に繋がらない患者へのフォロー、遺伝性腫瘍の患者の家族にどう伝えるか。
- ・ 遺伝カウンセラーがいないため、月 1 回の臨時の方に頼んでいます。今の状況でできることを伝えて、患者さんのフォローをしていきたいと思います。
- ・ 遺伝子検査を行う際に遺伝子科、診療科と説明をする人が多くなればなるほど患者は混乱している様子がかがえます。

情報提供のあり方

- ・ 拠点病院との連携、連携後の継続的関わりや、どこで情報共有するかなど整備。
- ・ がんゲノム医療は基本的にはがん医療の一連の中に含まれるものであると理解しています。がん看護を基盤とする看護師がしっかりとがんゲノム医療に携わっていけることがとても重要であると感じます。ただ、現状では施設間でリソースも違えば機能・役割も違うので、個人にとっては課題を共有しにくいことが実践をより難しくしているようにも思いました。
- ・ 在宅領域でも遺伝性のがんを疑う方、希少がんなどゲノム医療の対象となりそうな事例に出会いますが、実際にゲノム医療に繋がっている患者さんは非常に少なく、情報提供の難しさを感じています
- ・ 事例でもあったように、がんゲノム医療の対象になる方は、遺伝性腫瘍が判明してから病状が悪化したり亡くなることもあるため、血縁者の相談につなげるのが難しい。
- ・ 遺伝カウンセリング実施や情報提供の困難さが課題であると考えております。

システム構築、チーム医療、体制整備

- ・ 今日のテーマでもありましたが、がん医療における遺伝子検査は治療が目的ですが、その遺伝子の背景をどこまで重要視していくか。ケアの継続について、遺伝子の話が出ると、診療科の医師や看護師が難しく考え対応できないと感じてしまう場合もあるため、それをどう和らげるか。
- ・ 現在、当院では、非常勤の遺伝看護専門看護師や常勤遺伝専門医（産婦人科医）によるカウンセリングを行っており、パネル検査、広くゲノム医療を行う上では腫瘍内科やがん看護専門看護師が連携して支援していますが、まだまだ発展途上です。疾患が多岐にわたる中、カウンセラーががん精通していなくとも支援できるよう連携体制を整えていく必要性を感じます。
- ・ 病院内のシステム構築
- ・ 多職種で取り組める体制整備
- ・ パネル検査後の患者のフォロー体制の構築
- ・ ゲノム医療について地域の医療従事者に理解して頂く事。
- ・ がんゲノム医療でのチーム医療
- ・ 遺伝性の可能性がある二次所見がわかった場合のカウンセリング体制が充分といえない状況にあること。
- ・ ゲノム検査の紹介のタイミング(が遅く)と各施設との連携
- ・ 今後、ますます多くの養成が見込まれる遺伝看護専門看護師と、がん看護専門看護師の役割分担の在り方、どのような場面でそれぞれがイニシアティブをとり役割発揮していくか、そして誰にどのように返事をすべきか混沌としている患者の情報整理する支援が必要と感じます。それはタイムリーかつ継続的に行う必要があり、その体制作りが当院の課題と感じています。
- ・ 遺伝関連の連携、患者家族へのサポート体制について
- ・ 現在は医師主導であり、どちらかと言えば治療の選択肢を考える上での遺伝学的検査という立ち位置。患者

さんやその他得られる情報がその家族にもどれだけ影響が及ぼすかも含めて多職種と考える必要がある。

リソース

- ・ 医師のみで説明がなされており、看護師が意思決定の場面で関わるマンパワーが不足していること。
- ・ ゲンゲノム医療について関心のある医療スタッフが少数でありシステム化が充分といえないため苦慮している。
- ・ ゲノムに関わるナースにある程度、がん医療の知識や経験が必要になってくるため、院内での広がりが人員の選定から困難であること。
- ・ マンパワーが必要であること
- ・ がん専門病院や大学病院以外でも一般病院でもゲノム医療が行われるようになったが、人材のリソースが非常に限られていること。医療資源としても、更なる人材の増員などが難しい現状があること。

教育・スキルアップ

- ・ 看護師は部署移動するので、がんゲノム医療の教育が難しい。看護部から、がんゲノム医療に関する理解を得られていない。
- ・ スタッフ教育
- ・ 看護師の教育
- ・ 遺伝カウンセラーがいない病院なので、患者様のケアが不十分。また、スタッフの知識不足もあり課題と感じている。
- ・ どれだけゲノムリテラシーを多くの方に持ってもらうか
- ・ 遺伝子外来やカウンセラーそのものがないため、その問題をキャッチし、キーとなる現場の看護師への教育から必要と考えている。
- ・ 所属施設スタッフのがんゲノム医療に関する知識不足により、患者の不安や疑問に十分に答えられていない現状を今後どうしていくか、関連職種で検討していくこと。
- ・ がんゲノム医療における一般看護師への知識普及・教育
- ・ コンパニオン診断のための遺伝学的検査は多数行われています。認定遺伝カウンセラーによる遺伝カウンセリングは、実臨床で全件行うことは不可だと思っておりますので、その分自分たちのスキルを高めないといけないと思えます。
- ・ 臨床スタッフの教育、看護基礎教育における教育
- ・ 専門的な知識を一般の患者さんに伝える為にまずは患者さんの身近にいる看護師が「遺伝カウンセリング」「がんゲノム医療」といった基本的な知識を知っておくべきだと思いました。

その他

- ・ 患者への情報提供のツールで、現存するものは患者には難しいものが多く、使いづらい
- ・ カウンセラーの充足と地位向上、看護師の知識向上
- ・ 主治医の価値観や知識の差も感じます。

▼その他、ご意見・ご感想がありましたらご自由にお書きください。

Web 形式の講義について

- ・ 秋田では学ぶ機会が多くないテーマでしたので貴重なセミナーでした。オンラインで受講とグループワークができ、他施設の現状や悩みを共有しながら学ぶことができ大変有意義でした。また機会があれば是非参加したいです。よろしくお願いします！
- ・ Web 上で事例検討を効果的に行うためにも、事前のお知らせや操作方法などのアナウンスがあるとよいと思いました。オリエンテーション/導入ももう少しあるとよかったです。
- ・ 3月に開催予定だった際には、遠方のため参加しようか迷っておりました。今後もぜひ web 開催をご継続いただけますと大変有難いです。
- ・ zoom 会議に不慣れでありましたが、楽しく意見交換が出来ました。

グループディスカッションについて

- ・ 講演もグループディスカッションもとても参考になりました。
- ・ グループワークは貴重な機会でしたが、教材(事例とディスカッションポイント)が分からず困りました。また全体討議中も今、何について意見を言えばよいのかが分かりにくかったのが残念でした。
- ・ GW では各施設での情報共有ができ勉強になりました。
- ・ 事前に事例や GW の資料を配布して欲しかったです。
- ・ 事例に基づいたグループワークができたのは、様々な立場の方からの意見も聞くことができ、また実臨床の話も聞くことができ、大変有意義な時間でした。
- ・ 入ったグループで、事例を持っているのが1名だけで、その方がお持ちの事例を画面共有で見るといった形だったので、各自事例を持てるとよかったです。

その他

- ・ ゲノム関連のナース同士の横の繋がりが少ないため、こういったセミナーは本当にありがたいです。
- ・ ゲノム医療の臨床で課題はたくさんあると感じていますが、患者様とご家族、血縁者の将来の健康も視野にかかわっていきたいと思います。
- ・ 事例についてはあまり話せなかったが、各病院の取り組みや課題がわかったので、看護としての遺伝への関わり方の参考になった
- ・ 内容の濃いセミナーをありがとうございました。
- ・ 大変有意義なセミナーをありがとうございました。
- ・ 準備等含め、学習機会をいただき、ありがとうございました。
- ・ 今後に活かしていこうと思います。どうもありがとうございました。
- ・ またこのような機会があれば参加させて頂きたと思います。
- ・ 貴重な機会をいただき、ありがとうございました。
- ・ 大変勉強になりました。
- ・ いつも有意義な内容での研修会の開催をありがとうございます。